



2005 DAN総合設計海外視察旅行
PRAHA*WIEN*BUDAPEST

氏名

連絡先

美しき中欧の古都 プラハ・ウィーン・ブダペスト 8日

日 時：出発：2005年10月14日（金）10：10 成田空港発
最寄の駅_____発 大船駅6：07 発/横浜駅6：26 発
（↑各自事前に調べておく事） （JR 特急成田エクスプレス 以3号）
帰国：2005年10月21日（金）7：55 成田空港着（予定）
成田空港にて解散

スケジュール表

	時間	集合場所	行動	備考
10月14日 宿泊地:ブラハ	6:07		6:07 大船駅発/6:26 横浜駅発 JR特急成田エクスプレス3号	朝食・両替は各自任せます。
	6:25			
	7:55		成田空港着	
	8:10		集合 成田国際空港第2ターミナル3階 団体受付 Gカウンター31-33 ベスト掲示板前	
	10:10		出発 LX0169 スイッチャー・リョウカエライズにてチューリヒへ	
	15:55		(日本との時差8時間遅) チューリヒ着	
	18:00		LX1498 スイッチャー・リョウカエライズにてブラハへ	
19:20		ブラハ着 着後ホテルへ		
10月15日 宿泊地:ブラハ	午前		《ブラハ市内観光》 ブラハ城(入場)、中世最古の石橋カレル橋(下車)、聖ピート教会(下車)と「百塔の街」といわれる美しいブラハの情緒あふれる街をご案内いたします。	
	午後		自由行動	
	夕食		ビアレストランにてお召し上がりいただきます。	

	時間	集合場所	行動	備考
10月16日 宿泊地： ウィーン	バス 午前		プラハ発 「街全体が博物館」といわれるチェコ有数の古都チェスキークルムロフへ (約3時間)	
	午前		《世界遺産チェスキークルムロフ観光》 世界遺産にも指定されている、 チェスキークルムロフ城 (入場)は内部までご覧いただき、その後中世の街並みがそのまま残る美しい 旧市街 の散策をお楽しみいただけます。	
	バス 午後		チェスキークルムロフ発 ウィーンへ (約4時間)	
	夕刻		ウィーン着 着後ホテルへ	
	夕食		ウィーン風居酒屋ホイリゲにてお召し上がりいただけます。	
10月17日 宿泊地： ウィーン	午前		《ウィーン市内観光》 ハプスブルグ家の豪華絢爛たる シェーンブルン宮殿 (入場)、 国立オペラ座 (下車)などを訪ね、リンクと呼ばれる環状道路からは、市庁舎などの名建築物群を車窓より眺めます。また ベルベデーレ宮殿(庭園) (下車)へもご案内いたします。	
	昼食		ウィーン名物ウィンナー・シュニッツェル(仔牛のカツレツ)をお召し上がりいただけます。	
	午後		自由行動	夕食は皆(会社)で食べます。

	時間	集合場所	行動	備考
10月18日 宿泊地： ブダペスト	バス 午前		ウィーン発 ドナウ河流域で最も美しい景勝地と称されるドナウバント地方へ (約3時間)	
	午前		《ドナウバント地方観光》 セルビア人が築いた芸術の薫り高い街 セントンドリ 、かつてのハンガリーの都 エステルゴム 、要塞の街 ヴィシュグラード など、3つの魅力的な街を観光いたします。	
	昼食		魚料理をお召し上がりいただきます。	
	バス 午後		ドナウバント地方発 ブダペストへ (約1時間)	
	夕刻		ブダペスト着 着後ホテルへ	
10月19日 宿泊地： ブダペスト	午前		《ブダペスト市内観光》 ドナウの流れと絵のように美しい市街を見下ろす 王宮の漁夫の岩 (下車)8000人収容、名案とともにブダペスト1の大聖堂である初代ハンガリー王の名前を冠した イシュトバーン教会 (下車)、歴代王の戴冠式が行われた マーチャーシー教会 (入場)、英雄広場(下車)などを訪れます。	
	昼食		ハンガリー名物のシチュー・グヤーシュをお召し上がりいただきます。	
	午後		自由行動	
	夜		ドナウ河ナイトクルーズへご案内	
	夕食		民族音楽とダンスのフォークロアディナーショーにてお楽しみいただきます。	

	時間	集合場所	行動	備考
10月20日 宿泊地：機内	9:35		LX2251 スイフト-アヨカヒラインにてチューリヒへ	
	11:20		チューリヒ着	
	13:05		LX0168 スイフト-アヨカヒラインにて帰国の途へ	
10月21日	7:55		成田着 着後 解散	

プラハ

Praha

■ブラハ城（2005/10/15） Prazsky Hrad

ハラツチャニの丘に建ち、市街を見下ろすブラハ城。すでに9世紀にはこの場所に貴族の城が建てられていたが、現在の形になったのは14世紀のカレル4世の時代。広大な敷地内にはブラハ最大の教会である聖ピート教会や、ハプスブルク家に支配されるまでは王の居城だった旧王宮、10世紀に建てられたブラハ城内でもっとも古い教会聖イジー教会などがある。聖イジー教会の奥は召使や職人、錬金術師などが住んでいた黄金小路。ここには一時期、作家のフランツ・カフカも住んでいた。ほかにも王宮美術館、火薬塔、夏の離宮ベルベデーレ宮殿など見どころは多い。



■カレル橋（2005/10/15） Karlův most

ブルダバ川に架かる幅約10メートル、長さも500メートル以上ある大きな橋で、14世紀から15世紀にかけて造られた。車が通行できないため、散策する人だけでなく、土産物を売る人や大道芸人なども集まり、橋の上は1日中賑わっている。橋の左右の欄干には15体ずつ聖人像が立っているが、これは橋が完成したずっと後になって付け加えられたもの。一番最初に建てられたという聖ヤン・ネボムツキー像の台座に掘られているネボムツキーに触れると幸運に恵まれるという言い伝えがあり、そこだけみんなに触られてつるつるに光っている。



■ 聖ビート教会 (2005/10/15)

Katedrala St.Vita

ブラハ城を遠くから眺めるとまっ先に目につくのがブラハ最大の教会、聖ビート教会。前に立つとその迫りに圧倒される。もともとは10世紀初頭にロトンドと呼ばれる円筒形の簡素な教会から始まったのだが、14世紀にカレル4世がゴシック様式の壮麗な建物に建て直し、その後も何度も改築されて、完成したのはなんと20世紀に入ってから。バロック様式、ネオ・ゴシック様式の部分が一部見られるのも完成までに長い時間を要したため。壮麗な外観も素晴らしいが、内部の美しいステンドグラスも見逃さないように。



NATIONALE-NEDERLANDEN BUILDING



ナショナル・ネーデルランデン・ビル

Frank O.Gehry & Vladimir Milunic (1996)

建物は外観に突出したふたつの円筒形のゆがみが、ダンスをするカップルに似ている事から「ダンス・ハウス」の異名をとっている。特に北側のゆがんだシリンドーにまわり付いたガラスのカバーが、錯綜したイメージを醸してブラハの目抜き通りに不協和音を奏でている。

PRAHA CASTLE ORANGERY



ブラハ城オランジュリー

Eva Jiricna(1999)

チェコ出身で、現在ロンドンで活躍する女流建築家のエヴァ・ジリクナは、国際コンペで1等を射止めた。ジリクナの最優秀案は、ガラスとステンレス・スチールの潇洒なシリンドー形ヴォールト。エンジニアリング・テクノロジーの名人芸的作品で世界的に知られる彼女の故郷へ錦を飾った作品だ。北側にある16世紀の塀が保存され、それに沿ってハイテクなガラス・シリンドーが延びている。

BRITISH COUNCIL IN PRAHA

在ブラハ英国領事館

Jestico + Whiles Architects (1992)

領事館は他国における自国の文化的橋頭堡だ。ブラハのウェンセラウス広場にほど近い「在ブラハ英国領事館」は、チェコにおけるイギリスの文化センターとしての役割を担っている。

中央空間のガラス天井を筆頭に、それに対応した前面ガラス・ブロック張りの床、前面ファサード、照明器具などは、長い間ふさがれていた。主要なオリジナルの特徴部分を補修し、新しいエレメントを注意深くそれらに加味することによって、ジャスティコ+ワイルズはこの魅力的な建物に感覚的で革新的な対応を試みた。

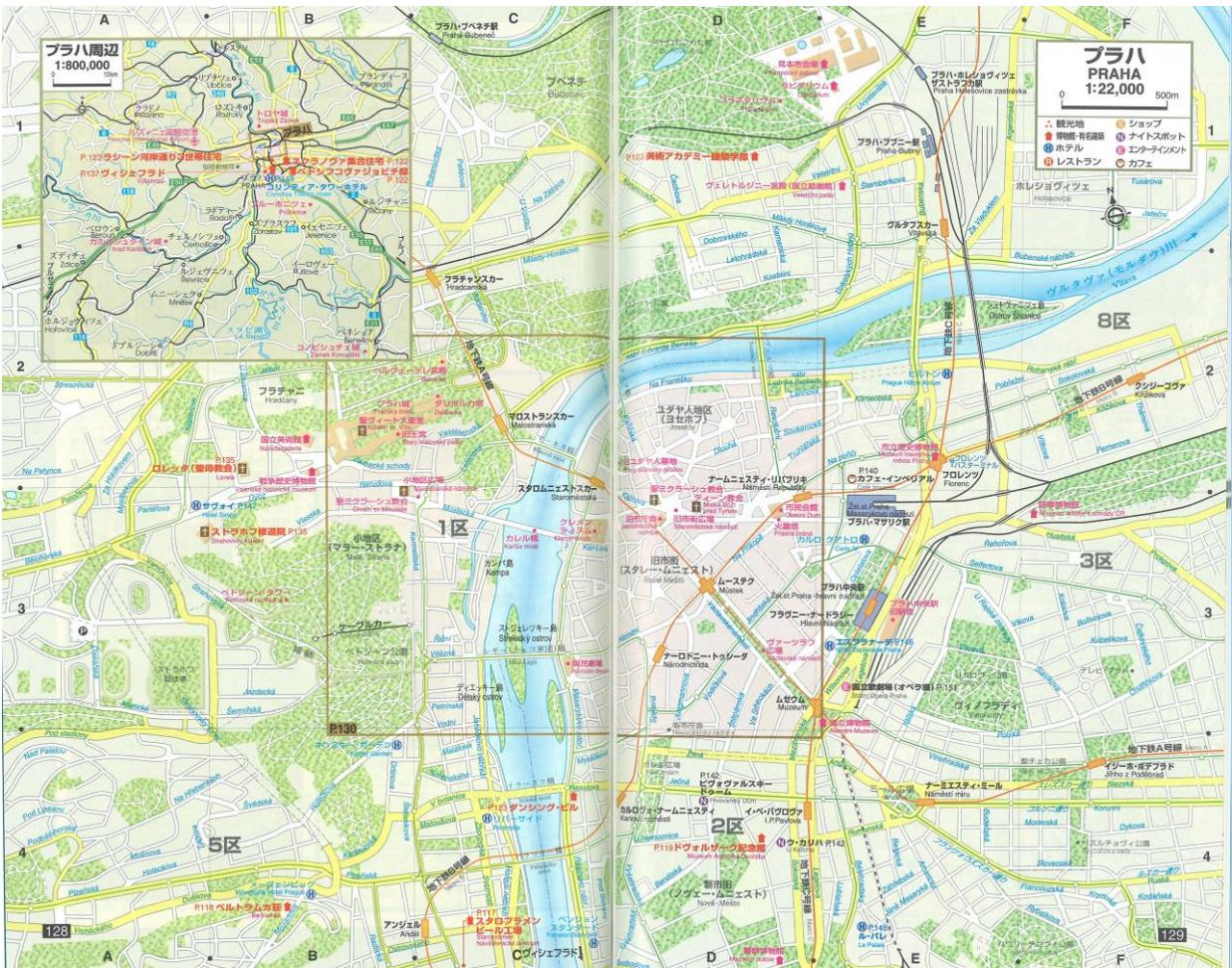
PRAHA ANDEL

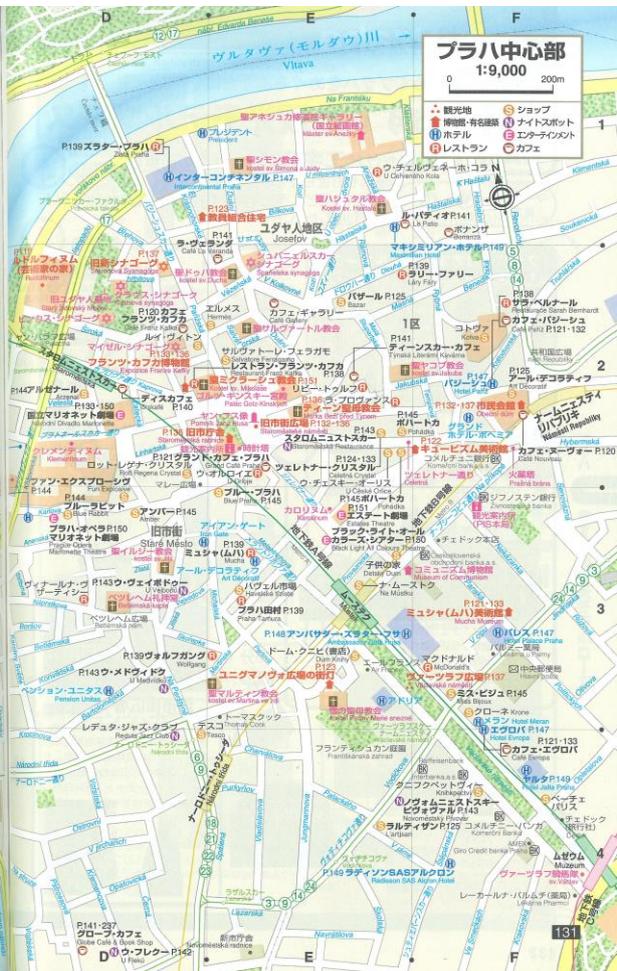


プラハ・アンデル

Jean Nouvel (2000)

ベルリンの天使がプラハに出現。ジャン・ヌーベルの新作「プラハ・アンデル」は文字通り訳せば“プラハの天使”。最寄の駅である地下鉄 B 線のアンデル駅にあやかって命名した「プラハ・アンデル」は巨大な商業ビルだ。建物はファサード建築とっていいくらい、サーフェス（表層）に凝っている。プラハの街並みの伝統であるカラフルなファサードや地下鉄アンデル駅に形象化されている、先述の天使がそれである。





チェスキークルムロフ

Cesky krumlov

■チェスキークルムロフ城（2005/10/16） Zamek Cesky Krumlov

チェスキー・クルムロフは世界文化遺産にも登録された世界有数の美しい歴史的都市で、中世からルネサンスにかけての街並みがそっくりそのまま残っている。町の中心にそびえる城がチェスキー・クルムロフ城。建てられたのは13世紀後半だが、その後ルネサンス様式に改築。17～18世紀にはバロック様式の建物も付け加えられ、それぞれの時代の様式が見事に調和する美しい城になった。城の塔から見る緑に囲まれた町の風景は絶景のひとつ。庭園や地下の洞窟を利用したギャラリーも見ものだ。



ウィーン

Wien

■シェーンブルン宮殿 (2005/10/17) Schloss Schonbrunn

悲劇の王妃マリー・アントワネットも過ごしたことがあり、モーツァルトが初めての御前演奏を行ったという豪華な宮殿。ハプスブルク家の夏の離宮として建てられたもので、ヨーロッパではベルサイユ宮殿と双肩、オーストリアでは最大の規模と豪華さを誇る。ウィーン会議が行われた大広間、マリア・テレジアの前でモーツァルトが演奏した鏡の間、マリー・アントワネットの部屋など宮殿内部だけでも見どころは盛りだくさん。金箔をふんだんに使った装飾やボヘミアングラスのシャンデリアなど、ロココ調の内装の優雅さにはため息が出るほど。ほかに庭園やグロリエッテ、ネプチューンの泉なども必見。



■オペラ座 (2005/10/17) Wien Staatsoper

パリ、ミラノと並びヨーロッパ3大オペラ劇場のひとつ。壮麗なベネチア・ルネッサンス様式の外観はウィーンの落ち着いた街並みに溶け込み、オペラの殿堂の風格を感じさせる。1869年にモーツァルトの名作オペラ「ドン・ジョバンニ」でこけら落としとなったこの劇場では、現在も7~8月をのぞく毎日、一流のオペラやバレエを上演。ロココ調で統一された内装も華やかで、ゴブラン織りと大理石の広間、モーツァルトの「魔笛」をモチーフにしたフレスコ画など、見るべきものも多いので内部見学ツアーも実施している。毎年2月に開催される華麗な舞踏会「オパーンバル」も有名。



General Post Office



中央郵便本局

Adolf Krischanitz(1994)

アドルフ・クリシャニッツの作品はウィーンの歴史に関わるものが多い。彼はそこから啓発されることがよくあるようだ。

建物はかつてのドミニカ派の修道院。その中庭の回廊を郵便ホールへと改修した作品。中庭に屋根を架け、前面光天井として御影石張りの床との間にインターラクティブな関係を生み出している。両者の間に漂う明るく澄んだ空気は、ワグナーの「ウィーン郵便貯金局」のそれと同質であることが容易にわかる。

Haas House



ハースハウス

Hans Hollein (1990)

ウィーン1区にあるシュテファン広場。ハンス・ホライン設計の「ハース・ハウス」の敷地は、ウィーンの歴史が濃厚に漂う最高級な場所にある。

この建物は、未来志向のコンセプトをベースに設計されており、それに見合った技術や材料が使用されている。石、メタル、ガラスを多用しているが、特に石材は、微妙な色合いの緑色系のものが数種用いられている。

Schullin Jewelry Shop I & II



シューリン宝石店 I & II

Hans Hollein (1982)

豪華な材料の扱いでは超一流の腕前を見せるホライン。「シューリン宝石店Ⅰ」では大理石ファサードに亀裂入り。「Ⅱ」は「Ⅰ」より規模が大きく、ファサードもふたつの木柱、ふたつのショーウィンドウ、ふたつの丸窓とシンメトリックだ。

Retti Candle Shop



レッティ蝋燭店

Hans Hollein (1965)

古いウィーンの街並みにはめ込まれたクールなアルミ・ファサードのショップ。シンメトリックなデザインはスッキリした印象を与えると同時に、上部から採光窓、エアコン、ドアと無駄のない構成。現在はろうそく店ではない。

Hundertwassr-Hous



フンデルトヴァッサー・ハウス

Friedensreich Hundertwasser+Peter Pelikan
(1986)

フリーデンシュライヒ・フンデルトヴァッサーは建築家ではない。画家である。

1997年、ウィーンの市長は、著名な画家であった彼に、今までの集合住宅を越えた、より人間的な集合住宅をつくるべく設計を依頼した。

Wien Central Bank



ウィーン中央銀行

Gunther·Domenig(1979)

ウィーンを中心部を少しはずれたファフォーリーテン街の目抜き通りに建つ「ウィーン中央銀行」は、建設当時非常にセンセーショナルな話題を提供した建築である。その形態の異様ぶりに、近隣住区の人々や勤労者たちの強い反対があったからだ。

建物のファサードは、上部より一定のリズムで等分に分節されたパターンによって覆われているのだが、4、5階あたりから急激に出っ歯のように湾曲しつつ迫り出して、1階の軒あたりではちょうど巨大な生物が口を開いたような恐ろしい形相なのだ。

Karntner Bar



アメリカン・バー

Adolf Loos (1907)
アドルフ・ロースのもっともポピュラーな作品。わずか3.5m×7mという矩形のシンプルなプランながら、三方の壁の上部に鏡が張られ、何倍にも広い空間として映り込む。大理石やオニックス、マホガニーの華麗な雰囲気が良い。

Looshaus



ロース・ハウス

Adolf Loos (1910)
1、2階の店舗部分には大理石が張られ、3階以上は住宅部分で、白い壁にポツ窓が連続する。歴史的建造物の立ち並ぶミハエル広場に面して、過激なまでにシンプルな表情は、ロースの「装飾と犯罪」ろ実践したもの。

Reiss Bar



ライス・バー

Coop Himmelb(l)au (1977)
ウィーンはケルトナー・ストリートの日暮れ。そそろ歩きの観光客でざわめくこの通りから、ほんの数メートル横丁に入ったところにある「ライス・バー」は、勤め帰りの人たちが待ち合わせに使ったり、1杯のシャンペンで一日の疲れを癒す憩いの場所である。

MajolikaHous



マジョリカ・ハウス

Otto Wagner (1899)

マジョリカ島産の流麗な花柄のタイルに覆われたファサードは官能的な美しさ。アール・ヌーボー建築を代表するもの。隣接する38番地のアパートには金色の装飾が施されている。

Secession



ゼツェッション館

Joseph Maria Olbrich (1899)

ウィーン分離派の展示館。オルブリッヒの数少ないウィーンの作品。上部に輝く金色のアール・ヌーボー的ドームが特徴だが、ドーム回りの構成は師ワグナーの「シュタインホーフの教会」に似ている。

Wien Postal Savings Bank



ウィーン郵便貯金局

Otto Wagner (1906)

当時の先端的な建築として有名。スチール、アルミ、ガラスの巧みな使用、光天井というまでもなく、床から屹立するアルミ製の吹出し口も特徴的。外壁のアルミ製のリベットは、クライフスや高松伸に影響を与えたと思われる。

Karlsplatz



カールスプラッツ駅

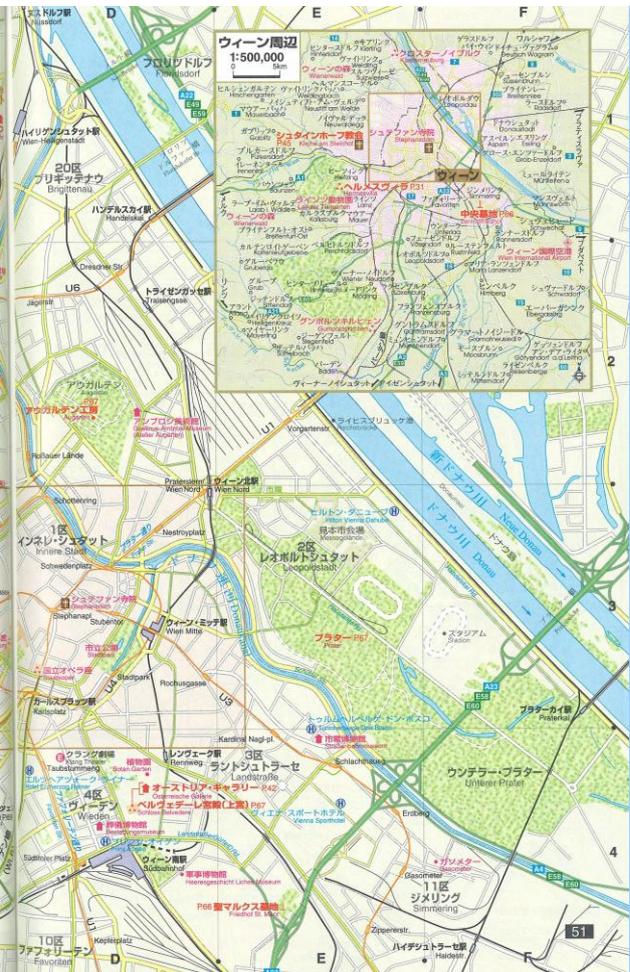
Otto Wagner (1899)
美しい装飾はもちろん、技術的にも地下鉄駅という新しい機能に対する見事な解答。カール広場の北側にあり、現在はワグナーの資料館。ワグナーは2路線36カ所の駅舎と橋梁の設計を担当している。

Wien Central Bank Headquarters



ウィーン中央銀行本社

Gunther·Domenig(1992)
1960年代前半に建設された建物の改装。中央に配された吹抜けの光庭が来客に与える空間体験が、この建物の醍醐味といえよう。ファサード全面に施された網状の装飾が建物のマッシブに軽やかさを与えている。





ドナウベント地方

Dunakanyar

ブダペストを奨学金ドナウ川に沿って北上すると、川がほぼ直角に曲がっているポイントがある。そのあたりがドナウベント（ドナウの曲がり角）と呼ばれる美しい地域。ドナウ川と緑豊かな自然に囲まれた情緒あふれる古都が点在していて、観光客にも人気の地方だ。ドナウベントの中心になる町は、町全体が童話にでてくるような家並みのセンテンドレ、ドナウ川が直角に曲がっている風景が見られるヴィシェグラード、ハンガリー・カトリックの総本山があるエステルゴムなど。ブダペストから日帰りもできる。ドナウ川を船で上ってくるのも楽しい。

■センテンドレ（2005/10/18） Szentendre

1920年代にアーティストたちのコロニーが生まれて以来、現在では小さな町に15以上の美術館やギャラリーがひしめき「芸術の町」として知られている。



■エステルゴム（2005/10/18） Esztergom

キリスト教国家としてイシュトヴァーン国王が西暦1000年ここに王宮と大聖堂を建設。ハンガリー建国の地である。現在もハンガリー・カトリックの中心地である。



■ ヴィシュグラード (2005/10/18)
Visegrad

ドナウ川がほぼ直角に曲がる地点。山頂の要塞跡から眺めるドナウの曲り角の眺望はドナウベントの観光の目玉となっている。この地は 14 世紀に華やかに栄えた古都であった。現在は当時の古墳が残るのみ。



ブダペスト

Budapest

■くさり橋 (2005/10/19) Szechenyi Lanchid

正式名称をセチェーニ橋というこの橋は、ドナウ川を挟んで東西に分かれたブダ地区とペスト地区を結ぶ9つの橋のひとつで、最初に架けられたもの。ハンガリーでもっとも美しい橋といわれ、訪れる人も多い。たもちに建つライオン像が絶え間なく行き交う観光客を眺めている。完成したのは19世紀半ばで、そのしばらく後にブダとペストは統合されてブダペストというひとつの市になった。この橋を架けようと力を尽くしたセチェーニ公も、統合を願ったひとり。橋は統合の象徴ともなった。



■漁夫の砦 (2005/10/19) Halasz basztya

漁夫の砦というおもしろい名前の由来は、このあたりに魚市場があったからとも、ドナウの漁師ギルドがこのあたりを守っていたからともいわれている。砦は白い石造りのネオ・ロマネスク回廊式の建物で、三角のとんがり屋根をもつ丸塔がなかなか愛らしい雰囲気だ。回廊の上部は展望台になっていて、ドナウ川や川越しに広がるペスト地区が望める絶好のポイント。砦が造られたのは20世紀初頭とかなり新しいが、今やすっかりブダペストの名所のひとつになっている。



■ 聖イシュトバーン大聖堂 (2005/10/19)

Szt.Istvan Bazilika

ハンガリーの初代国王、イシュトバーンはキリスト教を保護し、国内に広めた功績で、死後聖人に列せられた。この教会は彼にちなんだもので建国 1000 年を記念して 19 世紀末から 20 世紀初めにかけて建てられたもの。2 本の塔と中央にドームがそびえるネオ・ロマネスク様式の壮大な教会だ。中に入ると聖イシュトバーンの右手として伝わる聖遺体が公開されている。約 96 メートルの高さがあるドームの周囲は展望台になっていて、300 段以上もある階段を登り詰めると市内の素晴らしい風景が楽しめる。



■ マーチャーシーの教会 (2005/10/19)

Matyas templom

王宮の丘の北側、ブダペスト王宮とは反対側にあるマーチャーシ教会は約 80 メートルの高さの尖塔をもつゴシック様式の美しい寺院。第 2 次世界大戦で被害を受けたが、その後、もとの姿に復元されている。16 世紀にトルコに占領された時には、モスクに改修されたという歴史ももつ。トルコが撤退した後、18 世紀にバロック様式のカトリック教会として修復された。王の戴冠式も行われたことから、戴冠寺院とも呼ばれている。今ある建物は 19 世紀にあったものの復元だが、教会の原形は 13 世紀後半にベーラ 4 世によってすでに建立されている。



■英雄広場（2005/10/18）

Hosok tere

1896年、ハンガリー建国1000年を記念してつくられた広場。中央の高さ36mのモニュメントの上は大天使ガブリエル（：ハンガリー初代国王イシュトヴァンに王の冠を授けるよう、ローマ教皇に啓示を与えたとされている。）これを中心に半円形に並ぶ14人の立像は建国にちなんだ英雄たち。

いつ行ってもイシュトヴァン王の頭上にはハトがとまっています。ハンガリー人はアジア人。東方より馬に乗ってこの地までやってきたとのこと。性、名の順番は我々アジアと同じです。

（”塩、足らん！” は、”ショータラン”）

騎馬民族で馬の扱いも非常にすぐれています。現在でも、ブダペストから日帰りでも、馬のショーを観に行けます。（馬が完全に横向けに寝て、その馬の上に人が立ち、ムチを地面にピュンピュン打ちつけますが、馬はビクリともせず横たわったままです。ハンガリー平原で敵から身をかくすとき、馬の姿が見えないようにこのように訓練されたとのこと。また、ムチのピュンピュンは、鉄砲の弾の音にも驚かないようにとのこと。）



ING BANK & NNH HEADQUARTERS



国立オランダ・ハンガリー本社&ING 銀行

Erick van Egeraat (1994)

ドナウの女王と呼ばれる東欧の古都ブダペスト。マジャール文化の粋が凝集されたこの街には、まだまだツルピカの現代建築が少ない。前世紀の建築が街並みを支配し、旅をして本当に東欧に来たと実感させる魅惑の都市だ。この建物は、19世紀に建設されたイタリア風の建築。古い組織には手を触れないで改修したもので、外観は以前となんら変わらない。改修は中庭の上部を覆って2階分のフロアを増築し、さらに屋上にオーガニックな形態をしたペントハウス空間を生み出した作品。

Former Postal Savings Bank



郵便貯金局

Odon Lecher (1902)

エデン・レヒネルの作品ではもっとも重要なもの。敷地が通りで囲まれているため、建物形態が集約したような形になった。ショルナ工場産のタイルで覆われたコーニスや屋根、レンガ張りピラスターのファサードが特徴だ。

Museum of Applied Arts



応用美術館

Odon Lecher (1896)

美術館と応用美術学校をもつこの建物は、ハンガリーの芸術とクラフトを助成するために建設された。ハンガリーの民俗芸術は東洋に起源があることから、ムガル調の展示ホールなど東洋的エッセンスが用いられている。

The Institute of Geology



地質学研究所

Odon Lecher (1899)

エデン・レヒネルのナショナル・スタイルをもっともよく残す建物。まばゆいばかりのセラミック・タイルに覆われたテント形の屋根や、レンガで縁取りした装飾や窓の枠取りが特徴。エントランスや階段室も素晴らしい。

Synagogue



シナゴーク

Otto Wagner (1872)

ウィーンの著名建築師であったオットー・ワグナー初期の作品のひとつ。建物はエントランス棟（学校であったが後年アパートに改修）と、ギャラリーのある八角形の集会室からなる。大ホールの構造である細身のアイコン・コラムは驚異的なエンジニアリング技術の証左だ。



